

～日本メキシコ外交樹立135周年記念～

研ぎ澄まされた美の世界へと誘う ピアニスト

- E. レクオーナ：青い夜、ラ・コンパルサ、
ヒタネリアス、マラゲーニャ
A. ヒナステラ：アルゼンチン舞曲集より
M. ポンセ：間奏曲第2番
M. ポンセ：メキシカン バラーダ
G. ガーシュイン：ラブソディー イン ブルー

2023年6月10日(土)

開演 18:00 (開場 17:40)

会場／東京国立博物館 平成館ラウンジ
(西門よりご入場ください)

台東区上野公園13-9

- ・JR上野駅公園口または鶯谷駅南口下車 徒歩10分
- ・東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅、
千代田線 根津駅下車 徒歩15分



料金／5,000円 (全席自由)

<チケット>

東京国立博物館 正門観覧券売場(窓口)にて購入可能

販売期間：2023年4月1日(土)～6月10日(土)

販売時間：開館日の9時30分～閉館時間の30分前まで

※月曜休館(月曜日が祝日または休日の場合は開館し、翌平日に休館)

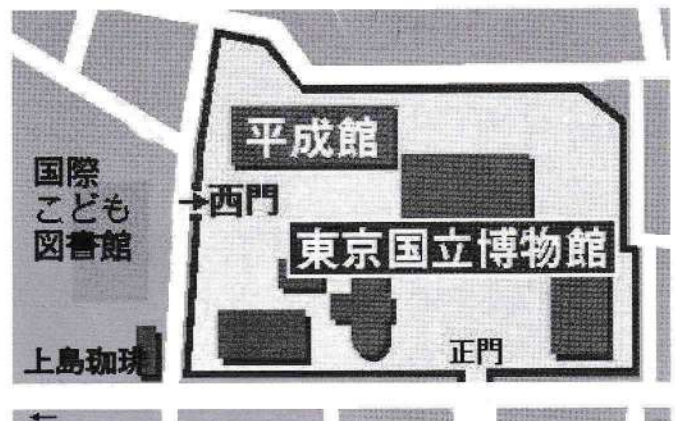
主催 東京国立博物館／サロン・ド・ソネット



ピアノ：アレハンドロ・ベラ

メキシコ、コアウイラ州ビエドラス・ネグラ出身。世界を舞台に活躍するメキシコを代表するピアニスト。彼の演奏は、神秘的で壮麗な世界を創り出し、聴衆を研ぎ澄まされた美の世界へと誘う。情感あふれる深い表現力は、まるで映像を見ているような生き生きとした情景を聴衆に想起させる。幼少よりピアノを母、オルテンシア・ベラ・マンテに師事。後にピアニストで作曲家のロバート・アバロンにテキサス州で師事。11歳から15歳の4年間、毎週日曜日母の運転で、片道200キロ、パスポートをもって、メキシコからアメリカ、テキサスにピアノを習いに通った。10代の頃、著名なピアニスト、指揮者であるマエストロ、クリストフ・エッセンバッハに見いだされ、シカゴシンフォニー、ヒューストンシンフォニー、オランダのロイヤル・コンセルト・ヘボウ、そして、イスラエルやカナダ、ドミニク共和国のオーケストラで、共演している。マエストロのアドバイスにより、ニューヨークのジュリアード音楽院に入学。ヨヘベ・カプリンスキーに師事し、学士号、修士号を取得。ジュリアード音楽院でのソリストのためのコンクールで優勝。ニューヨークのスーザン・ローズ音楽基金賞を2年連続受賞。演奏家としての活動の他、多くの時間を音楽教育にも注いでいる。ヒューストンAWTY国際スクールで教え、ヒューストンでは、「アーティスト・イン・レジデンス」として数年間滞在した。また、メキシコのサカテカス大学、台湾、ヨーロッパの大学でもマスタークラスを開催。近年では、プラハ、ブダペスト、東京、台湾、トロント、モントリオール、ローマ、ウィーン、キエフ、ベルリン、パリ、ベルギーでソロリサイタルを開催。メキシコシティ国立芸術センター他、数々のメキシコの文化施設での演奏会、フェスティバルに出演し、輝かしいキャリアを積み、その卓越した演奏で喝采を浴びている。2012年秋、2013年春、2015年から2019年まで毎年、日本ツアーを行い、名古屋、岡山、群馬、広島、沖縄各地で演奏会。都内では、東京国立博物館、イタリア文化会館、メキシコ大使公邸等でも度々演奏している。NHKB1「エル・ムンド」に出演し、好評を博した。2014年4月、12回もグラミー賞を受賞したRafa Sardina氏のディレクションにより、チェコ共和国で、中東和平をテーマにした壮大なピアノ・コンチェルトをチェコのオーケストラと録音。2019年メキシコで世界初演を果たす。

※西門よりご入場
ください →



特別展「古代メキシコ —マヤ、アステカ、テオティワカン」

会期 2023年6月16日(金)～9月3日(日)

会場 東京国立博物館 平成館

開館時間 午前9時30分～午後5時 ※入館は閉館の30分前まで

休館日 月曜日、7月18日(火) ※ただし、7月17日(月・祝)、8月14日(月)は開館

主催 東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社

協賛 NISSHA

後援 メキシコ大使館

企画協力 メキシコ文化省、メキシコ国立人類学歴史研究所

お問合せ 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

※展示作品、会期、展示期間、開館時間、休館日等については、今後の諸事情により変更する場合があります。
最新情報は展覧会公式サイト等でご確認ください。 展覧会公式サイト：<https://mexico2023.exhibit.jp/>